

河津桜について

平成18年秋、「ふれあい文化祭」を開催している中、学校入り口の看板を見て文化祭の会場にお見えになったのが、当時静岡県下田市立朝日小学校教頭の山本敬一先生ご夫妻でした。職員と生徒が一体となった中学校の劇を鑑賞されて、帰り際に私に挨拶をされてお帰りになりました。なぜ立ち寄られたのかというと、当日横浜に住んでいられた山本先生の娘さんを訪ねた帰路に、神奈川の山中をドライブしながら偶然に宮ヶ瀬小中学校前を通過され、通り過ぎたけれど文化祭の看板が気になり、引き返したということでした。学校の先生ということもあり、どんな文化祭なのか興味を持たれたようです。また山本先生の座右の銘が「一期一会」であり、人との出会いやふれあいをとても大切にされています。先生曰く「中学校の生徒と職員が一緒になって演じている劇がとても印象的でした。」そんな思いが先生の心を動かしたのかもしれない。

その場で十分なお礼を伝えられなかった私が、文化祭の来校者名簿から山本先生に電話を入れました。お礼とともに12月の宮ヶ瀬のクリスマスイベントをお伝えしたところ、イベント期間中の土曜日に再度宮ヶ瀬中を訪ねていただきました。クリスマスイベントを案内しながら、以前に私が見に行った伊豆の河津桜がとてもきれいだった話をしました。すると冬休みに入る直前の日曜日に、わざわざ西伊豆町から軽トラックのハンドルを握り、河津桜の苗木をご夫婦で運んでくださいました。当時は直径2～3cmだった苗木を、落合組のご協力を得てけやき広場とグラウンドの間に植樹しました。管理の仕方もご指導いただき、見事に活着して現在に至っています。

翌年の春、道徳の外部講師として山本先生を宮ヶ瀬中にお招きし、一本の原木から多くの人の絆と思いやりで河津桜が河津町の一大イベントになって街を潤していること、また全国にその苗木が行き渡り、早咲きの桜として人々の心を癒やしていることなどを熱く子どもたちに伝えてくださりました。以降、宮ヶ瀬の桜が気になっていらっしゃるようで、毎年宮ヶ瀬の河津桜の写真を送っています。これからも河津桜が宮ヶ瀬小中学校に癒やしと潤いを与えるシンボルとして、子どもたちとともに成長を続けていくことを願っています。

学校運営協議会委員

元宮ヶ瀬中学校長

石川 一郎 様

令和3年2月 寄稿